

## 11. 副看護師長に管理者補佐として動機づけができる副看護師長会の運営方法の検討

山口大学医学部附属病院 福田 美登里

### 【実践の概要】

団塊の世代の看護師長が退職時期を迎え、7対1看護配置となった平成19年より看護師長に12名、副看護師長に25名が昇任、また22年度は看護師長が5名、副看護師長が8名昇任予定と看護管理者が入れ替わる。副看護師長は教育と業務をそれぞれ担当し、副看護師長会を毎月開催している。会の内容は重要な報告事項と教育委員会や業務委員会と連携したグループワークである。

その副師長や副師長会は、看護師長の意見や、副看護師長への業務に関する調査から「看護実践は優れており現任教育や業務上の指導にやりがいを感じているが、看護師長代行業務・目標管理や看護研究の助言に負担に感じている。」「立場を管理者側ではなくスタッフ寄りに置き、管理的視点が低い」「副看護師長会は活動は行っているが発想に広がりがなく、受動的でマンネリ化している。」と分析された。そこで、問題を「副看護師長は看護実践者として役割モデルや与えられた業務は果たしているが、管理者補佐としての役割を知らない人が多い」とした。要因として①副看護師長は看護実践モデルからスタートし、昇任者オリエンテーションだけで副看護師長の役割や期待が伝えられていない。②病院や看護部の情報が十分に伝わっていない。③副看護師長の教育プランがなく育成方法が曖昧。④副看護師長は実務と副看護師長業務を行っており部署内における立場が確立されていない、疲弊していることが考えられた。以上から「副看護師長の育成には副看護師長の役割や期待、必要な知識や情報を得る期間の確保」が必要と考えた。

今年度、看護師長会では「副看護師長の育成」グループワークで「副看護師長の業務の見直しと権限委譲」を中心に検討している。副看護師長の成長は、看護の質や安全・業務改善、また次期管理者を育てる観点からも重要である。さらに看護部の目標である「マグネットホスピタルをめざす」へ繋がり、ひいては病院の発展につながる。私は業務担当副看護師長会を担当している。そこで、副看護師長会で育成の時間が確保できないかと考えた。

### 【実行計画】

目標：管理者補佐としての動機付けができる副看護師長会の運営計画案を作成する。

- ① 教育担当副看護部長と連携して目標を共通理解する。
- ② 副看護師長会で副看護師長会の運営方法の検討を提案する。
- ③ 施設訪問に副看護師長を同行する。
- ④ 副看護師長会であるべき姿を検討し、運営案を作成する。
- ⑤ 副看護師長会の役割を明確にする。

### 【結果およびまとめ】

計画1. 教育担当副看護部長と連携して目標を共通理解する。

課題に取り組むにあたり看護部内で、「山口大学医学部附属病院看護部が求める副看護師長」を再確認し、目標を共通理解した。

計画2. 副看護師長会で副看護師長会の運営方法の検討について提案する。

副看護師長に現行の副看護師長会をどのように思っているか調査を行った結果、他部署の情報が得られる重要な会としながらも、マンネリ化、本来は部署の問題を検討する会では、委員会の下請け、自分達が考えたテーマを検討したい、管理の勉強がしたいなど運営方法に意見があることがわかった。結果を踏まえ、副看護師長として成長できるような運営方法を自分達で考えることをと提案した。

計画3. 施設訪問に副看護師長を同行する。

課題に取り組むにあたっての施設訪問に、副看護師長を同行することで副看護師長や会のあり方をよ

り具体的に考えられるのではないかと考え、看護部長に相談して訪問先に了承を得た。訪問にあたり、2名の副看護師長に本計画と訪問目的を説明し、訪問後は副看護師長会で報告することを打ち合わせた。

計画4．副看護師長会であるべき姿を検討し、運営案を作成する。

訪問後、副看護師長会でプレゼンテーションを行い、検討した結果、「病院や看護部の動向、看護部の方針・目標を話してもらいたい」「看護管理などの講義が受けたい」「自部署の問題を検討したい」にまとめられた。教育担当副看護部長と検討し、副看護師長会に「看護部からの重要事項」「管理に必要な情報」「管理に必要な知識」「現場の問題解決」の4つの柱として取り入れることにした。

計画5．副看護師長会の役割を明確にする。

看護体制検討委員会に案を提示して目的や役割を成文化し、3月最終の看護師長会で了承を得た。今後、教育担当副看護部長と連携をとりながら、副看護師長が主体的に考え、成長できるようにマネージメントしていくことが課題である。

#### 【評価】

以下の視点から評価する予定である。

- ①副看護師長会での取り組みの変化
- ②人事評価における能力評価や目標管理における取り組みの変化
- ③看護部との個人面接での変化
- ④ 護師長との個人面接や病棟での変化
- ⑥ 務満足度調査の結果